

『巡検会報告』

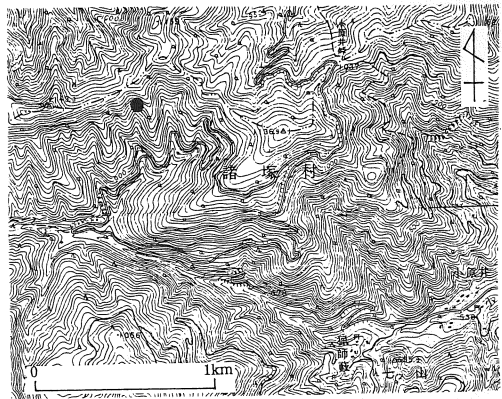
「宮崎県鞍岡付近の中古生界」

合志中学校 島田 礼二

平成10年10月24日(土)、熊大教育学部の田中均先生の案内で表記の巡検会が晴天の中で行われた。今回の目的は、宮崎県鞍岡地域の小原井峠付近に分布する古生界の地層観察および化石採集(フズリナ化石等)である(図-1)。参加人数は15名で、5台の車に分乗し、朝8時30分に熊大大学教育センター(前教養部)前を出発した。目的地まで3時間の行程であった。

小原井峠付近は、頁岩優勢砂岩互層のタービダイトを主体とし、塊状の石灰岩、チャート、玄武岩溶岩および玄武岩火山砕屑岩等のブロックを含む岩相を示している。この岩相の特徴は、マトリックスとブロックの地質年代がそれぞれ異なることである。すなわち、マトリックスを構成する凝灰岩質泥岩から白亜紀中期を示唆する放散虫化石が産出するのに対して、ブロックの石灰岩は二畳紀のフズリナ、チャートはジュラ紀の放散虫化石がそれぞれ産し、オリストストローム堆積体と考えられている(Sogabe, 1996)。今回、主に化石を採集したのはこのブロック(オリストリス)の石灰岩からで、比較的保存良好なフズリナを多く採集することができた(写真-1)。なお、Sogabe(1996)によれば、本層は、当地質体の岩相および産出化石に基づき、球磨川流域の坂口層に対比されている。さらに、フズリナ化石産地から西方約300m地点に白岩山衝上断層(村田, 1981)が観察された(写真-2)。従来は、この白岩山衝上断層を境にして南側の地質体を南縁部三宝山帯、北側のそれを北部三宝山帯と区分されていたが、最近、その衝上断層を境に南側を三宝山帯、北側を黒瀬川帯とする考え方がある(宮崎県, 1998)。

今回の巡検は、遠隔地でありしかも悪路のためこの一地区の露頭観察および化石採集であったが、保存良好なフズリナ化石を採集することや三宝山帯と黒瀬川帯を境するとされ



(国土地理院発行1/25,000の地形図を引用)
図-1 化石採集地点



写真-1 フズリナ化石産地

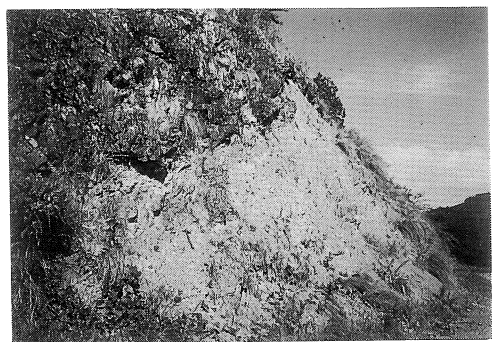


写真-2 白岩山衝上断層

る白岩山衝上断層を観察することができ有益な巡検会であった。

最後に終始丁寧な説明をしていただいた田中均先生に感謝を申し上げて巡検会報告とする。